

第4期中期計画 進捗状況報告（令和3年度）

本学では、第4期中期計画に「教育・研究」「学生支援」「管理・運営」「地域連携」の4つの重点項目に合計64項目の計画案を設定して教育研究活動の推進や学生支援の改善充実に取り組むこととしています。第4期中期計画の初年次でありコロナ禍2年目となった令和3年度は、各部署とも学生に対して学修機会を保障することを全学的最優先課題として教育活動や学生支援活動を教職協働で展開するとともに、第4期中期計画を踏まえて事業計画に基づいた業務推進に努めてきました。

重点項目Ⅰ 教育・研究

教育充実計画で11項目、研究推進計画で5項目の計画案を設定している。

学生に対し、コロナ禍での学修機会を保障することを全学的最優先課題として教育活動や学生支援活動を教職協働で展開してきた。

○教育充実計画

コロナ禍においては、学生の学修機会の保障や対面授業・遠隔授業等による教育の質の保証が最重要課題であり、その機会の提供や環境の提供を最優先して教職協働で取り組んできた。こうした状況から、第4期中期計画に設定した計画、実施細目については多くの項目で検討も含めて着手できていない。しかし、担当の部署や委員会において教員、職員共にそれらの項目の改善や実施の必要性を共有しているので、令和4年度から検討を行うこととしている。令和4年度以降に検討の開始を予定している項目については計画通りに進めていく予定である。

○研究推進計画

コロナ禍のため、北方圏生涯スポーツ研究所等での研究の推進は、客体となる学生の活動制限もあり組織だった推進には至っていない。国の科学研究費等への支援も含めて従来の取組、対応を充実しながら研究活動を進めているが、現時点においては新たな研究推進や研究支援の体制整備について検討に着手できていない状況にあるので、令和4年度以降の着手を予定している。

重点項目Ⅱ 学生支援

学生生活支援計画で8項目、キャリア支援計画で6項目の計画案を設定している。

○学生生活支援計画

コロナ禍で学生の登校や活動を制限せざるを得ない状況もあり、直接的に学生の関与が必要な計画には着手できていないが、令和4年度以降検討を開始する予定であった計画に前倒して着手できたものもある。特に、冷房設備の充実が学生からの要望に対応するもので令和4年度実施の予算化ができています。また、教員と学生がパソコンを通じて双方向で対話できる環境整備なども一部前倒して実施している取り組みである。令和3年度着手できなかった計画、令和4年度以降の計画についてもその必要性は認識しており、令和4年度には検討を開始することとしている。

○キャリア支援計画

すべての計画に対し、検討段階も含めて着手している。令和4年度以降も支援の充実や精度の向上につなげるよう、成果を検証しながら取り組んでいくこととしている。

重点計画Ⅲ 管理・運営

経営基盤安定計画で17項目、キャンパス整備計画で6項目、入学者受け入れ計画で3項目、大学広報計画で3項目の29項目の計画案を設定している。

○経営基盤安定計画

多くの計画を設定している中で、ほぼ全ての計画に着手できている。ただし、これまでの取り組みを維持している部分もある。それぞれの計画における成果の向上や制度化的必要性を確認しており、令和4年度以降も継続して取り組んでいくこととしている。なお、教育組織の再編と適正定員の検討は行われ、その結果は令和4年度入学生からの適用、令和5年度入学生からの適用となっている。

○キャンパス整備計画

学生や教職員の安心・安全に向けて、施設設備やキャンパスの整備更新はこれまで同様、予算の範囲内で適正に実施している。今後も安心・安全はもちろん、学生の満足度向上につながる環境整備に向けて学生の要望も反映させながら管理委託業者とも連携して取り組んでいくこととしている。コロナ禍での学生の学修機会の保証に向け、遠隔授業対応を含めたICT環境の整備を優先して行った。

今後の他の整備については、計画通り検討し予算措置を行っていく予定である。

○入学者受け入れ計画

計画通りに検討、実施ができている。取り組みの効果は令和 4 年度入試の結果をもって検証・分析していくこととしている。留学生や社会人学生の確保に向けては計画通り令和 5 年度から検討を開始することとしている。

○大学広報計画

大学広報を行うための情報の把握・整理と蓄積を行っている状況である。今後は、教育・学修の成果や研究成果、学生の活躍、自己点検評価結果の効果的な発信について検討しながら実施していく予定である。また、学外への情報発信だけではなく、行動指針や本学のブランドイメージの共有などインナーブランディングの手法についても検討していく。

重点項目Ⅳ 地域連携

地域連携計画で 3 項目、地域貢献計画で 1 項目の計画案を設定している。コロナ禍にあって地域連携、地域貢献共に計画通りの取り組みはできていない。

○地域連携計画

包括連携協定事業や高大連携事業においてはオンラインツールの活用や規模を縮小するなどの工夫を行い可能な範囲で実施した。しかし、学生が直接活動する取り組みについては中止せざるを得ないケースもあった。今後は、新型コロナウイルスの感染状況を考慮しながら段階的に進めていく。

○地域貢献計画

認知度も高い活動を教員と学生、地域が連携して継続して実施できた取り組みもあるが、コロナ禍にあって中止せざるを得ない取り組みもあった。一方で、教養講座や公開講座では遠隔方式で展開したことにより例年より多くの住民に生涯学習機会を提供できた。本学の特長を生かした企画や取り組みや活動の拡大については段階的に検討していく。